

病虫害発生予察特殊報 第2号

害虫名：スグリコスカシバ
学名：*Synanthedon tipuliformis* (Clerck)
発生作物：クロスグリ(別名：クロフサスグリ、カシス)

1 発生確認経過

平成23年6月に、東信地方のクロスグリ(別名：クロフサスグリ、カシス)栽培ほ場で、枝の芽が全て枯死するか、新芽の生育が著しく劣る症状が確認された。被害枝内部には体長10mm前後の暗褐色の蛹がみられ、ほ場内ではスカシバガ科とみられる成虫が飛来している状況が確認された。採集した蛹を飼育し、成虫を農林水産省名古屋植物防疫所へ同定依頼した結果、スグリコスカシバと判明した。

本種はヨーロッパ原産と考えられている害虫であり、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアと広く分布している。国内では2008年に北海道で初めて確認され、以後、青森県、岩手県に次いで、本県は4例目である。

2 形態

成虫の大きさは、雄で開長16~19mm、雌で開長18~21mmである。前後翅とも透明であり、頭部、胸部及び腹部は黒褐色で、腹部には細い黄色の帯がある(図1、図2)。触角は黒褐色で先端に毛束がある。蛹は体長10~12mm、褐色である(図3、図4)。老熟幼虫の体長は約11mm、胴部は乳白色、頭部は赤褐色である。

3 生態と被害

- (1) 幼虫態で越冬し春季に蛹化する。成虫は年1回の発生であり、発生時期は、北海道の報告によると6月中旬~下旬とされているが、6月上旬に現地ほ場を調査した際に、成虫が飛来している状況が確認されたため、本県の東信地方では6月上旬~中旬であると推測される。
- (2) 幼虫は2年枝以上の枝内部に食入するため、芽が全て枯死するか新芽の生育が著しく劣る症状を呈し、樹勢が衰弱する(図5、図6)。また、幼虫の加害により枝の強度が低下するため、被害枝は折れやすくなる。
- (3) 寄主植物として、スグリ科のフサスグリ、クロスグリが確認されている。

4 防除対策

- (1) 現在のところ、本種を対象とする登録農薬はない。
- (2) 成虫発生期(6月上旬~中旬)までにほ場内を点検し、被害枝等を確認した場合は速やかに切除してほ場外へ搬出し、焼却処分を行う。



図1 スグリコスカシバの成虫



図2 スグリコスカシバの交尾状況



図3 被害枝内の蛹の状況



図4 蛹



図5 クロスグリの被害状況



図6 クロスグリの芽の被害

長野県病虫害防除所
所長：飯島 章彦
担当：武井 正明
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp